

# 決 算 報 告 書

自 平成 27 年 4 月 1 日  
至 平成 28 年 3 月 31 日

特定非営利活動法人 フォレストサイクル元樹

電話番号 090-9631-1610  
住 所 宮城県栗原市若柳上畑岡大立85-3







法人名： 特定非営利活動法人 フォレストサイクル元樹

## 財産目録

2016年 3月 31日現在

(単位:円)

科 目	金 額	
<b>I 資産の部</b>		
<b>1. 流動資産</b>		
現金預金		
手許現金	347,821	
ゆうちょ銀行	4,217	
未収金 (環境基金・宮城県)		
<b>流動資産合計</b>		352,038
<b>2. 固定資産</b>		
(1) 有形固定資産		
什器備品		
機械用動力設備	234,711	
デモ用薪ストーブ 1台	16,305	
スライドソー	470,948	
スライドソー三角定規	32,760	
簡易製材機	122,855	
手動ウィンチ 1台	16,279	
<b>固定資産合計</b>		893,858
<b>資産合計</b>		1,245,896
<b>II 負債の部</b>		
<b>1. 流動負債</b>		
預り金A(所得税)	37,681	
預り金B(住民税)	19,300	
<b>流動負債合計</b>		56,981
<b>2. 固定負債</b>		
役員借入金		
理事1名より	14,100,000	
<b>固定負債合計</b>		14,100,000
<b>負債合計</b>		14,156,981
<b>正味財産</b>		△ 12,911,085

# 平成27年度事業報告①

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

## 1.事業総括

平成22年4月にNPO法人を立上げ丸6年が経過しました。本報告書では、平成27年度決算及び27年度に実施した事業の概略についてご報告申し上げます。

### 1.27年度決算について

平成26年度決算は前年に続きマイナスで、単年にて600万円強の損益を計上する結果となりました。平成24年11月に「間伐材工房 元樹」を立上げ後、スタッフ給料や社会保険料等人件費関連及び、工房家賃や水道光熱費等固定費だけで年間約1,100万円の支出の影響で、3期連続で赤字を計上する結果となり、累積赤字も増加しております。今まで役員借入金にて何とか補填してきましたが返済目処もなく、組織として先行き不安な状態が継続しております。そのような事情にて、工房立ち上げ時からお手伝いをしていたパートの方も、契約満了に伴い雇用継続を断念し、現在はフルタイム(理事を含む)正規職員3名のスタッフにて全体の活動を支えております。

活動当初から、助成金や補助金に頼らない組織運営を目指し、活動理念に基づいた自主事業の確立を目指してチャレンジしてきましたが、工房立ち上げ2年目からは「自転車で坂道を漕ぎ続ける」例えの如く、来月からの活動を継続できない状況を何度も乗り越えて今日に至っております。

また、前年対比の損益拡大要因として、助成金収入も26年度387万に対し27年度は215万円と45%減っている事と、事業収益が26年度666万円に対し27年度572万円と前年対比14%減っている事に加え、28年3月に認定された業務改善助成金を活用しての数種類の機械設備購入資金約100万円の先払い分が影響しており、助成金収入減額分と設備購入分を除くと前年度とほぼ同じ損益水準になります。

27年度も、工房運営固定費や活動経費をまかなえるだけの安定収益の確保には至っていませんが、工房設備を有効に使った家具製作やノベルティー製品の大口受注、木材加工の受注等単発ではありませんが、今後に関わる受注を獲得できたことは大きな収穫です。

### 27年度新たに導入した機械装置



バンドソー



フライス盤



トリマーテーブル



レーザー加工機



移動型兼用集塵機

# 平成27年度事業報告②

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

## 1.事業総括

### 2. 森林整備保全事業について

25年度からスタートした林野庁「森林・山村多面的機能発揮対策交付金」事業は3年目を迎え、特に南三陸町の杉林においては、小規模自伐循環型林業確立を目指した素材生産と連動させながら、施行方法や作業工程の、安全を担保しながら如何に効率を上げられるかを実践にて試行錯誤を繰り返しながら、考えられる高いレベルをほぼ確立出来るまでに至りました。素材の出荷だけでなく、小径木等の林地残材の活用も前に進みはじめました。

27年度は素材生産だけで材積88.85m<sup>3</sup>出荷し1,118千円の売上を計上、集材作業の難易度が高まり収益こそ出す事はできませんでしたが、労務費を含めた経費の確保はクリアしました。素材出荷の売り上げ以外でも、小径木の園庭資材として10t車1台分の販売や、いぐね伐採の売り上げ等前年を大きく上回る成果を出す事ができました。

本格的な森林施行を始めてから丸3年が経過しました。私たちの様なNPOが実施出来るレベルの限界や作業コスト・収益確保の為の要件等林業全体の現状が概ね理解できる様になり、私たちの装備や人員で今のままやっていたのでは、そう遅くない時期に継続が困難になる事が明確になりました。

法人が目指す、“木を使う人を増やす事”で「小径木等林地残材の活用」を図る事こそが、小規模自伐循環型林業には必要であると確信しています。



出荷の為にグラップルによる搬出



軽架線による集材・土場集積



現場近くの林道で野生のカモシカに遭遇



仙台市の認定こども園への搬入

# 平成27年度事業報告③

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

## 3. 「間伐材工房 元樹」の運営について

工房が稼働してから3期目の年となりました。昨年までに比べ、工房で使うスライドソーを中心とした各種工作機械や電動工具の操作を含め、製作品の精度やクオリティーも確実に向上してきました。

今まで開発してきた各種木工品に加え、収益の柱となりうる新たな商品を模索しながらサンプル品を製作しては幼保施設等で評価や反応の確認を繰り返した1年でした。

他者との差別化や活動全体へのプラスを期待して認証取得した環境省「カーボン・オフセット」や農水省「総合化事業計画(六次産業化)」は正直期待はずれでしたが、唯一昨年7月に実施したホームページの大幅リニューアルは、「カーボン・オフセット」認証の補助事業として、一切のコスト負担なしでプロのデザイナーに依頼して一新を図ったもので、評判も大変良く、デザイン・内容とも素晴らしい出来栄に仕上がったと自負しております。同時に製作した、活動紹介パンフレットもHP同様満足が行くものができました。



バス型リモコンラック&人形用ベット

各種ウッドツリー(140cm・190cmとテーブルサイズ)

27年度も工房で製作した様々な木工品の販売は、イベントやマルシェ、ワークショップ開催の際に展示し来場者に直接販売するのと、幼稚園や保育園を訪問した際に紹介して販売する従来通りの形態に留まっております。販売量の大幅なアップは難しいのが現状です。ただHPリニューアル後は、工房で製作している間伐材加工品に加え、一般の方や民間事業者からの様々な問い合わせも増えてきました。内容的には、出前講座の開催相談や薪ストーブ、オーダー品の製作相談等様々です。全ての問合せがその先に繋がったわけではありませんが、HPが多くの人達に見られている事を実感しました。

工房で製作している木工品の多くは、今まで同様幼保施設の先生やそこに通うお母さんたちからの意見や相談・要望をヒントに製作してきました。昨年度は、仙台市の向山認定こども園で数十年間毎年12月に開催されている「キリストこども市」で、作品を販売するお母さんグループの打合せにオブザーバーとして参加し意見交換する機会にも恵まれ、生の声を聞けると共に、枝や丸太の輪切り等お店では買えない様なものへのニーズがある事もわかり、材料としての丸太や枝のオーダーに繋がりました。上記こども園では、園舎新築に伴って可動棚50台の大口発注も、県産の間伐材を使用する条件で当会に依頼していただき、年初早々に納品する事ができました。



新築の認定こども園(仙台市)に納品した間伐材工房 元樹で製作の可動棚(団体名・ロゴ焼印)



また、本年1月に河北ウィークリー県北版にて、工房を中心とした当会の活動を取上げてもらい、その後近隣を中心に多くの問合せが寄せられ製品の販売にも繋がりました。併せて、1月にHPを見た千葉県のプロパンガス販売の事業所から、大口のノベルティー製作の相談があり、試作品製作は年度内に完了し、正式な大口受注を受けられる事が確実となりました。同時に、一般流通形態での販売を見越した自社の新たな商品として、「森の貯金箱」を開発し、パッケージデザイン製作・パッケージ試作品製作までを完了し、販売先を探すのみまでこぎ着けました。



あえて途中でお金が出せない仕様、焼印デザインのオーダーも可能。→ペン立て・箸立てとして再利用可

また、本年1月に河北ウィークリー県北版にて、工房を中心とした当会の活動を取上げてもらい、その後近隣を中心に多くの問合せが寄せられ製品の販売にも繋がりました。併せて、1月にHPを見た千葉県のプロパンガス販売の事業所から、大口のノベルティー製作の相談があり、試作品製作は年度内に完了し、正式な大口受注を受けられる事が確実となりました。同時に、一般流通形態での販売を見越した自社の新たな商品として、「森の貯金箱」を開発し、パッケージデザイン製作・パッケージ試作品製作までを完了し、販売先を探すのみまでこぎ着けました。

そして年度終了ギリギリの3月には、スタッフ1名の最低賃金アップを前提とした助成金申請が採択され、バンドソーやフライス盤・トリマーテーブル・レーザー加工機・移動式集塵機の新たな機械設備を導入する事ができ、今後工房作業における加工の幅が拡大すると同時に、より効率的で精度の高い作業ができる様になりました。

27年度も出来なかった今後の大きな課題は、如何に効果的なPRや情報発信ができるか、新たな販路、継続性のある受注に繋がる販路の開拓です。

#### 4. 薪ストーブ普及活動について

27年度の設置はゼロに終わった。幼保施設や個人のお客様からの導入相談は複数あったが、設置までは至らなかった。27年度の活動として、2回の薪ストーブセミナー(仙台市内)や新緑祭でのデモ展示を実施し、導入ニーズがある事は実感。一番大きな反響があったのは、本年1月に仙台市中心部の勾当台公園で開催した「薪ストーブ・ペレットストーブフェスタ」で、当会ブースには200名を超える人が来場し、薪割り体験も順番待ちが出るほどの盛況であった。薪ストーブに対する関心の高さ・ニーズがある事と同時に、薪ストーブユーザーが薪の調達に苦労している事も判った。今後如何に当会の針葉樹も炊ける「夢ストーブ元樹」の導入に繋げるか、広報を含め課題として残った。



28. 1. 16仙台市勾当台公園にて「薪ストーブ・ペレットストーブ展示・体験フェスタ」の一コマ